

令和2年度 自主防災組織リーダー研修



北河内地域の災害リスク
(命を守る3つのこと)

自主防災組織のリーダーの方に・・・

～災害時に命を守る3つの事～

1. **正確な情報**を基に考える。
～マスコミ報道等に惑わされない～
2. **“自らの命～周辺の人々の命”**を守る。
～自助・共助で助かる命が多い～
3. **積極的に行動**する。
～待っていてもダメなことが多い～

1. 正確な情報を基に考える。

水防活動

Flood Prevention Activities



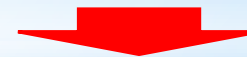
総合訓練等における水防活動

- ① **安全靴**では重くて泳げず**危険**。
- ② **ライフジャケット**着用すべき。
- ③ 小さい土嚢では対応しきれない。



救助活動

Rescue Operations



訓練や災害時のニュース等により

自衛隊等公的機関の救助イメージが強い。
災害初動期救助の主流は、**自助・共助**

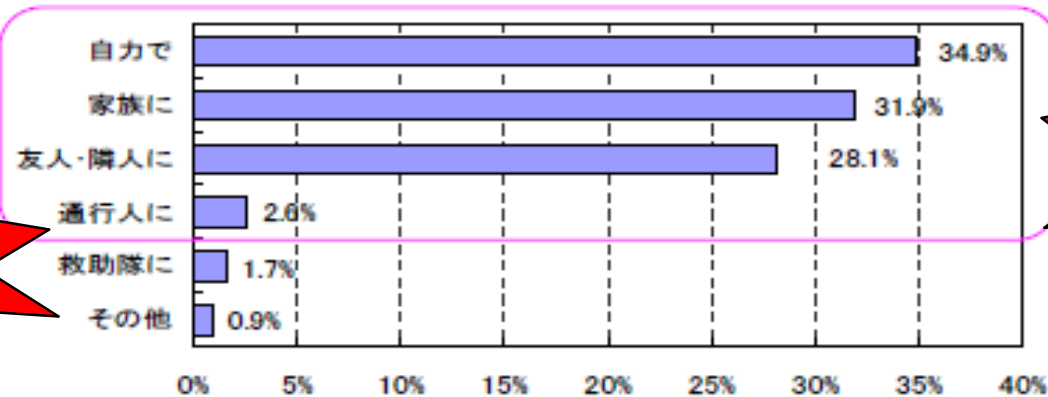
1. 正確な情報を基に考える（マスコミ報道等に惑わされない）

図1 阪神・淡路大震災における市民による救助者数と消防、警察、自衛隊による救助者数の対比



出典：河田恵昭：大規模地震災害による人的被害の予測。自然災害科学 Vol.16, N.1, pp.3-14, 1997

図2 生き埋めや閉じ込められた際の救助



出典：(社)日本火災学会：兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書(神戸市内、標本調査)

約 8 割

救助隊
1.7%

自助・共助
97%

- 阪神・淡路大震災では、がれきの下から救出された人のうち約 8 割が家族や近所の住民らなどによって救出されたという報告がある。
- 普段から支え合う関係が、大規模災害における犠牲を最小限に食い止めるために大きな役割を果たしている。

(出典：消防庁「自主防災組織の手引き」)

1. 正確な情報を基に考える。

- ◎ 生命を脅かす危機事象は様々
 - テロ、武力攻撃、原子力災害、大事故
 - 自然災害（地震・洪水・土砂災害 等）
 - 感染症（鳥インフル・エボラ・コロナ 等）
 - 動物等（クマ・セアカゴケグモ・ヒアリ 等）



- ◎ 危機事象毎に対応方法も様々
 - ① 運を天に任せるしかないものもある。
（例：ミサイル等の武力攻撃 等）
 - ② 自然災害は行動次第で助かる事が多い。

北河内地域の災害リスクについて (自然災害のうち洪水について説明)

◎ 船橋川・穂谷川・天の川～枚方市・交野市 例) 天の川 (禁野橋)

- ① 氾濫警戒情報 (避難判断水位) 4.3m
- ② 氾濫危険情報 (氾濫危険水位) 4.5m
- ③ 氾濫想定水位 (氾濫想定水位) 5.66m

枚方土木事務所 天野川 禁野橋

※水位周知河川 基準水位観測所

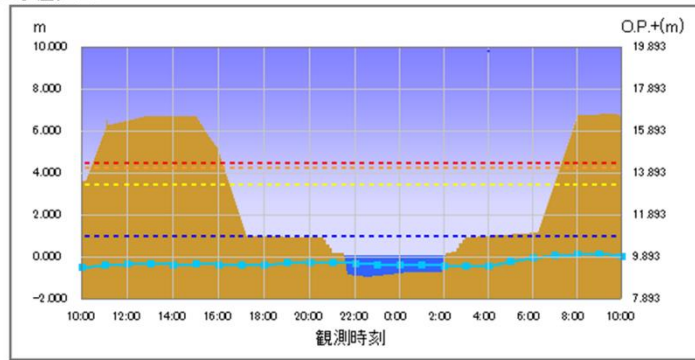
枚方市禁野

カメラ情報 観測情報

O.P.+(大阪湾最低潮位)

現在水位 (m)	堤防までの高さ(m)	水防団待機水位 (通報水位)(m)	はん濫注意水位 (警戒水位)(m)	避難判断水位 (特別警戒水位)(m)	はん濫危険水位 (危険水位)(m)	重水橋等橋高 (O.P.+(m))
0.070	6.663	1.000	3.500	4.300	4.500	9.893

■水位グラフ



水位グラフ

現在水位

水防団待機水位 (通報水位)

はん濫注意水位 (警戒水位)

避難判断水位 (特別警戒水位)

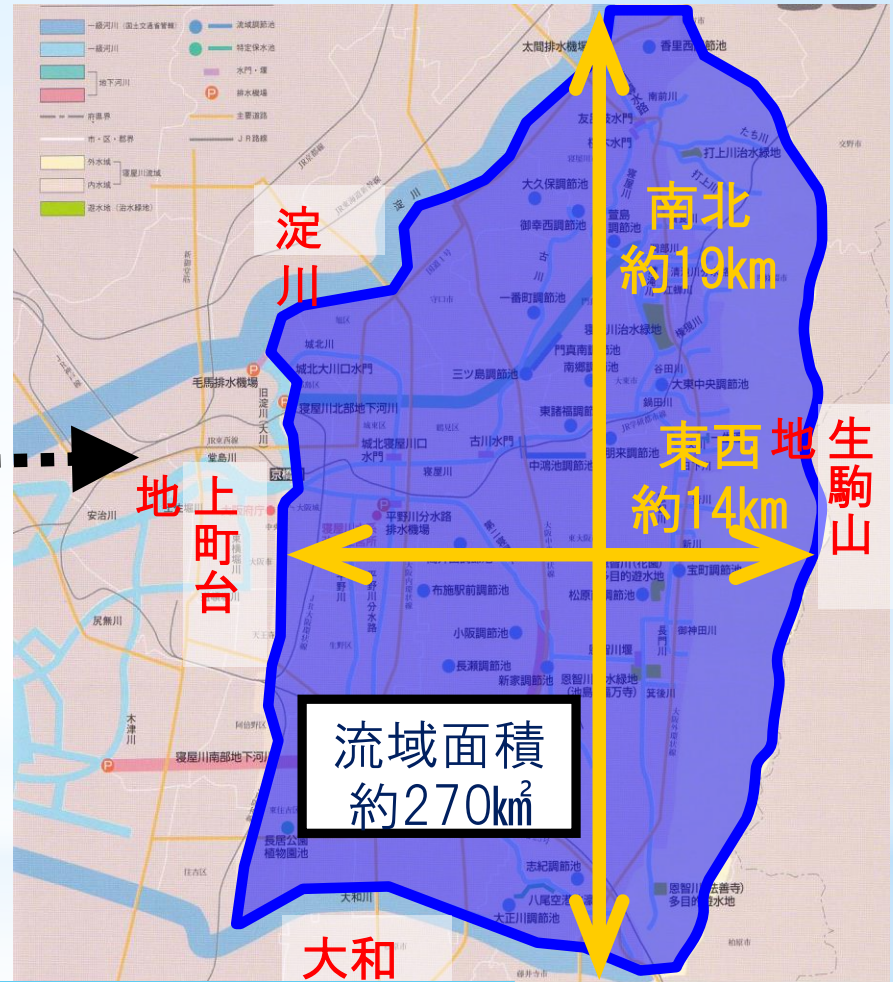
はん濫危険水位 (危険水位)

避難判断～氾濫想定水位迄
1.36m

◎ 溢水(あふれる) 迄の水位
破堤は想定していない。

◎ 水位上昇・2012年実績
10分で65cm上昇

◎ 寝屋川流域内に位置している 四条畷市・大東市・寝屋川市・門真市・守口市

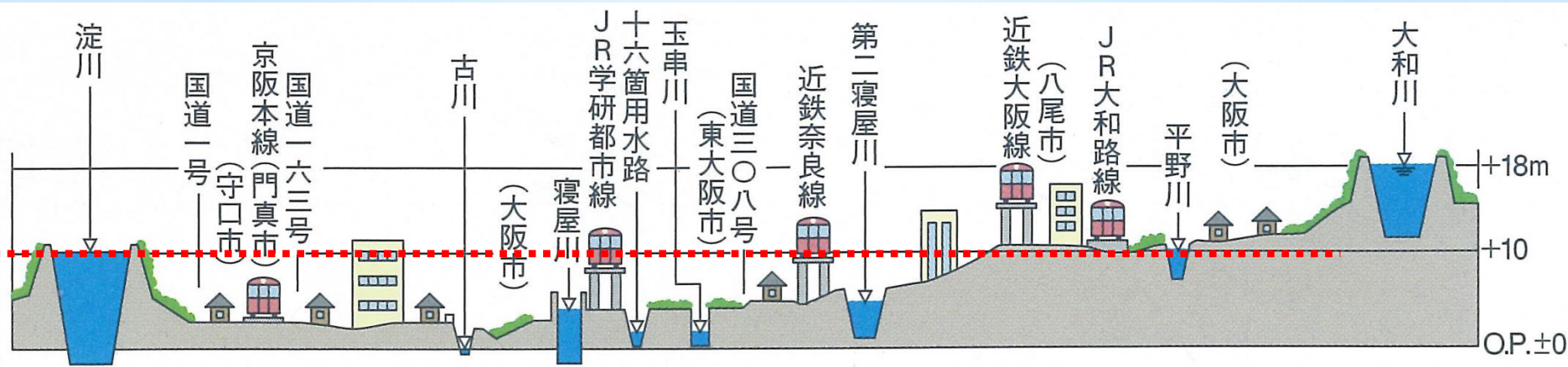


流域面積：267.6km²（大阪府面積の約1/7）
 流域の人口：約270万人（大阪府人口の約1/3）
 流域の資産：約51兆円

（2005年（H17年）国勢調査および2006年（H18年）事業所・企業統計調査に基づく）

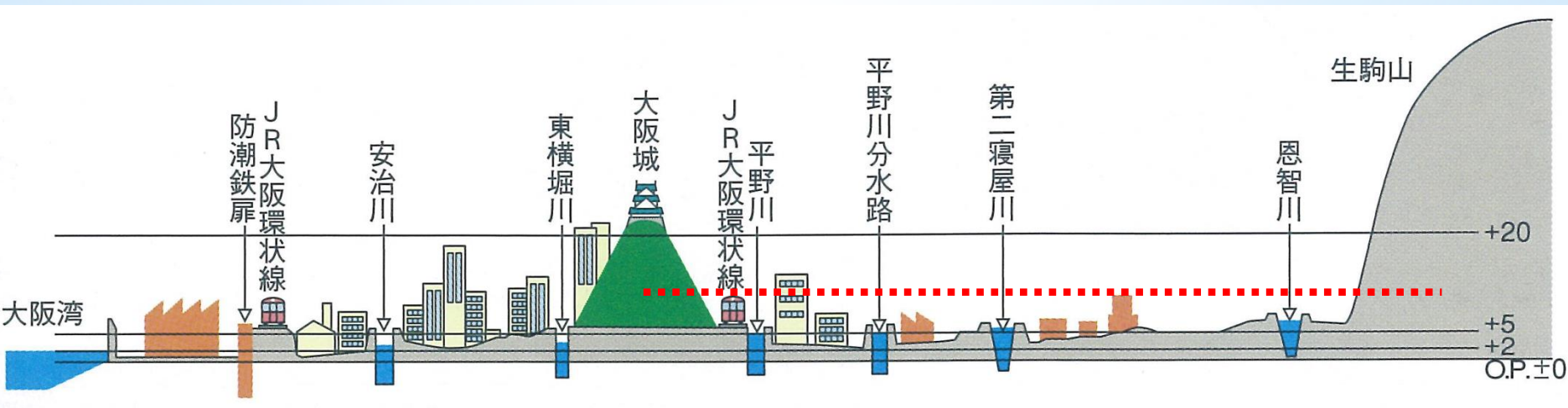
寝屋川流域の特徴（土地が低い）

南北断面図

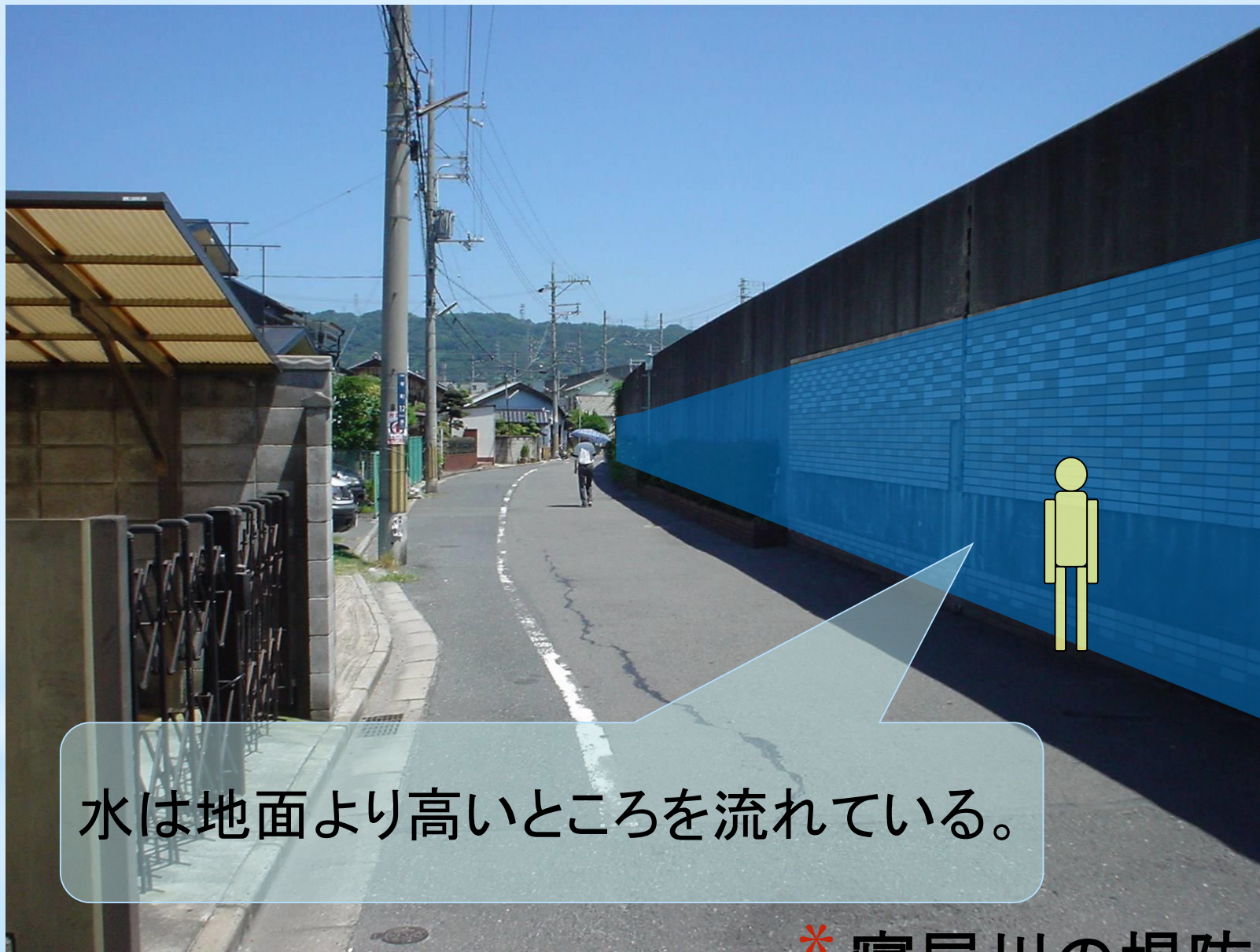


もし・・大雨時に淀川や大和川が破堤すれば・・

東西断面図



寝屋川流域は土地が低い！



水は地面より高いところを流れている。

* 寝屋川の堤防

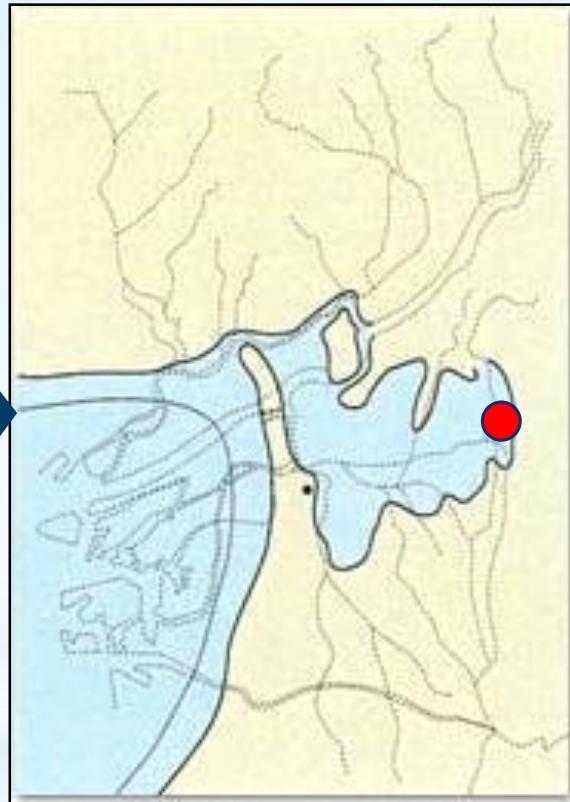
寝屋川流域の特徴（土地が低い）

過去の地形（河内湾 ⇒ 河内湖 ⇒ 埋立て高度利用）

《古代大阪平野の地形》



河内湾の時代
(約7,000~6,000年前)



河内湖 (I) の時代
(約1,800~1,600年前)



河内湖 (II) の時代
(5世紀頃)

寝屋川流域での浸水被害



昭和47年7月 大東市・曙町



平成7年7月 東大阪市・善根寺町



昭和57年8月 大東市・恩智川竹橋上流



平成9年8月 八尾市・本町

寝屋川流域での浸水被害

平成24年8月14日豪雨の被害状況

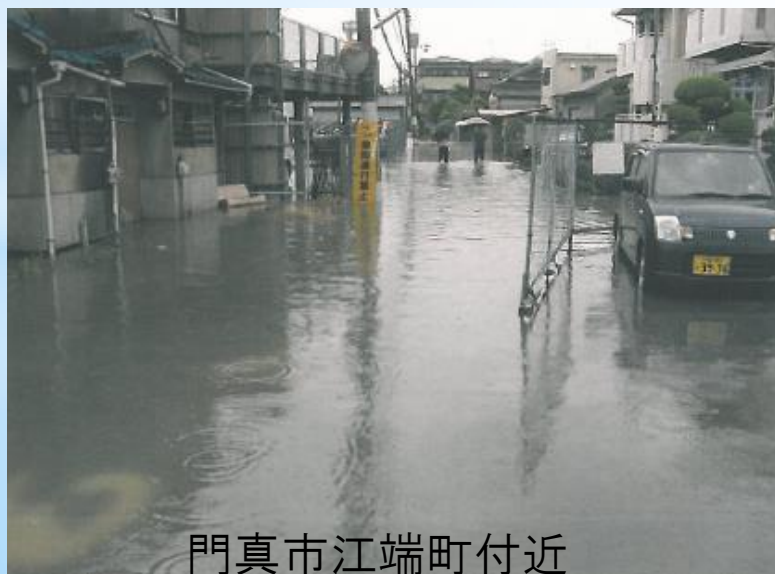
(最大時間雨量111mm/h・床上床下浸水約2万戸)



寝屋川市昭栄町付近



寝屋川市早子町付近



門真市江端町付近



門真市脇田町付近

★災害時の対応の基本

まず自分の生命を守る

⇒

自助

となり近所で 助け合う

⇒

共助

◎市町村発行の**ハザードマップ**等により

地域の情報をあらかじめ知っておく。

◎洪水・津波等の水害に対しては、3日間の

防災用水・食料よりも**ライフジャケット**を！

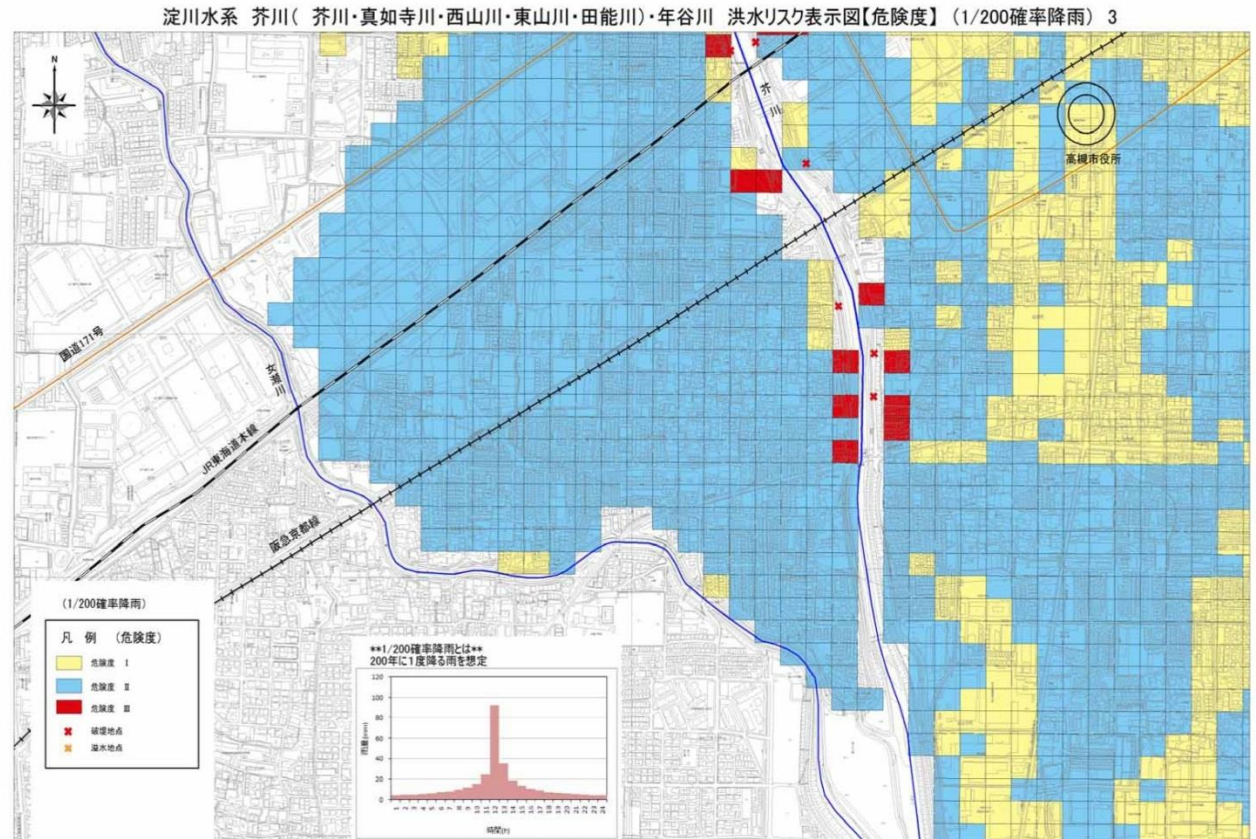
洪水リスク表示図

(各市が提供する
ハザードマップにて
事前に確認する)

- ① 自宅のリスク
- ② 避難所のリスク
- ③ 自宅～避難所の経路

(図書の縦覧場所)

- 河川室
- 危機管理室
- 府の出先事務所
- 該当する市町村
(危機管理、下水道、
河川部局 等)



○現状での河川氾濫・浸水の程度により河川毎の「地先の危険度」を評価する。

⇒時間雨量50ミリ程度(1/10)、65ミリ程度(1/30)、80ミリ程度(1/100)、90ミリ程度(1/200)の4ケースにおける河川毎の被害想定(氾濫解析)を行い、被害の程度に応じて「地先の危険度」をⅠ～Ⅲに区分

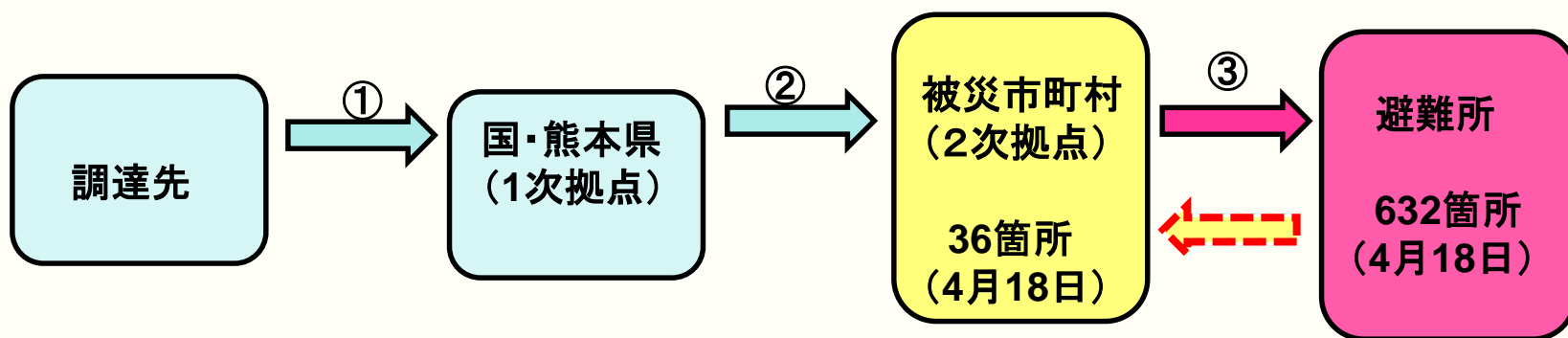
3. 積極的に行動する。～待っていてもダメなことが多い～

熊本地震におけるラストワンマイル問題について

- 平成28年4月14日、16日にマグニチュード6～7の地震が発生。
全国から被災地に水や食料などの支援物資が届けられた。

多くの支援物資（特におにぎり等の食料）が避難所に届かない状況を確認

→ 今後、各避難所から2次拠点まで支援物資を取りに行く事も検討すべき。



上記①～②は順調に輸送できた

2次拠点の荷降ろし、③輸送、
避難所荷降ろし段階で支援物資が滞留

(出典：九州地方知事会「熊本地震に係る広域応援検証・評価最終報告書」H29.5より抜粋)

➤ 被災市町村の限界

行政：被害状況把握・報告・応援要請等で手がまわらない状況

住民：家屋被害や人的被害による精神的なダメージが大きく行動しにくい状況